



2019年8月30日

各 位

会 社 名 株式会社 梅 の 花  
代 表 者 名 代表取締役社長兼COO 本多裕二  
(コード番号 7604 東証第二部)  
問 合 せ 先 取締役執行役 管理本部長  
上村正幸  
(TEL 0942-38-3440)

(訂正) 「平成29年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の  
一部訂正について

当社は、平成29年8月14日に開示いたしました「平成29年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 訂正内容の理由

訂正内容と理由につきましては、別途、本日(2019年8月30日)付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信等の訂正に関するお知らせ」にて開示しておりますのでご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所が多数に及ぶため、訂正後の全文を添付し、訂正の箇所には、\_\_\_\_を付して表示しております。

以 上

(訂正後)



## 平成29年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年8月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 梅の花  
 コード番号 7604 URL <http://www.umehohana.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 梅野 重俊  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役管理本部長兼経理部長 (氏名) 上村 正幸 TEL 0942-38-3440  
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年9月期第3四半期の連結業績（平成28年10月1日～平成29年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年9月期第3四半期	23,646	5.1	495	83.8	464	81.3	255	—
28年9月期第3四半期	22,507	0.5	269	△35.2	256	△23.9	0	△99.7

(注) 包括利益 29年9月期第3四半期 412百万円 (—%) 28年9月期第3四半期 △27百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年9月期第3四半期	<u>37.19</u>	—
28年9月期第3四半期	<u>0.07</u>	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年9月期第3四半期	<u>27,078</u>	<u>5,529</u>	<u>20.4</u>	<u>806.38</u>
28年9月期	<u>26,230</u>	<u>5,151</u>	<u>19.6</u>	<u>751.19</u>

(参考) 自己資本 29年9月期第3四半期 5,529百万円 28年9月期 5,151百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
29年9月期	—	0.00	—		
29年9月期(予想)				5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成29年9月期の連結業績予想（平成28年10月1日～平成29年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,089	5.7	246	52.3	187	207.7	53	△45.0	7.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

業績予想の修正につきましては、本日（平成29年8月14日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社 （社名） 、除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年9月期3Q	7,489,200株	28年9月期	7,489,200株
② 期末自己株式数	29年9月期3Q	631,677株	28年9月期	631,677株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年9月期3Q	6,857,523株	28年9月期3Q	7,252,313株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあり緩やかな回復基調にあるものの、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要があると言われる中で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは10月に株式会社丸平商店・ヤマグチ水産株式会社・株式会社グッドマーケットレーディング（以下「丸平商店グループ」）の3社の完全子会社化、11月に株式会社フジオフードシステムとの資本業務提携、4月に株式会社すし半を完全子会社化し、そのためのインフラ整備に着手する等、企業規模の拡大及び企業基盤の強化に取り組みました。また、外販事業の体制強化に加え、統合（相乗）効果の創出に向けた取り組みも開始いたしました。加えて、自然災害等に対するリスクの分散及び中長期的な出店並びに物流の効率化を見据えた新工場（京都府綴喜郡井手町）の建設計画につきましても進めております。

出店につきましては、外食事業は出店先の立地条件、賃貸借条件及び店舗の採算性等を勘案した上で都心部（中心市街地）への小型店舗や市街地近郊の戸建店舗の展開を、テイクアウト事業は百貨店、駅ビル及びショッピングセンター内への出店等を計画しております。12月に新たな試みで外食事業である「湯葉と豆腐の店 梅の花」の小型店舗として「成城学園前店」（東京都世田谷区）を出店いたしました。

店舗の出店及び退店につきましては、外食事業3店舗出店及び1店舗退店、テイクアウト事業2店舗出店及び3店舗退店、完全子会社化したすし半の13店舗が加わり、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は284店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、丸平商店グループ及び株式会社すし半を完全子会社化したことにより236億46百万円（前年同期比105.1%）と増収となりました。営業利益は、丸平商店グループ及び株式会社すし半の完全子会社化に伴う費用が発生しましたが、広告宣伝費等の見直しによるコストダウンにより4億95百万円（前年同期比183.8%）、経常利益は4億64百万円（前年同期比181.3%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億55百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益472千円）と増益となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### （外食事業）

外食事業におきましては、4月より株式会社すし半の店舗「和食鍋処すし半」（以下「すし半」）が加わりました。すし半ではうどんすき等の鍋料理・寿司・丼物・お膳等を提供する和食レストランを大阪近郊で13店舗展開しております。

すし半業態におきましては、チラシ等でサトレストランシステムズ株式会社から梅の花グループになったことをお知らせするとともに、梅の花の人気商品である「もちり嶺岡」を提供する等、相乗効果の創出に向けた取り組みを開始いたしました。

梅の花業態におきましては、新ポイントカードを導入し、お客様がポイントをご利用しやすい内容に変更するとともに、顧客分析により、それぞれに合わせた特典の提供を行う等、来店頻度の向上に取り組みました。また、専門スタッフが接客サービスや調理技術の向上の為、店舗訪問し指導強化に取り組んでおります。さらに、全国豆腐連合会主催の豆腐品評会にて絹ごし豆腐部門・金賞及び農林水産省食料産業局長賞受賞したことをうけて、3月より毎月12日を「豆富の日」と題し、「絹ごし豆腐」を数量限定販売する等、様々なイベントを開催いたしております。新しい顧客層の獲得に向けて、5月よりd POINT CLUBへ加盟しdポイント会員へのアプローチ、スマートフォンアプリのLINEを利用したクーポン発行、フェイスブックによる情報発信等SNSの活用に取り組んでおります。さらに、Web予約システムの導入等を順次進めております。

以上の結果、売上高は135億89百万円（前年同期比101.9%）、セグメント利益8億3百万円（前年同期比124.3%）となりました。

店舗数につきましては、梅の花は3店舗出店し75店舗、すし半13店舗、チャイナ梅の花3店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は1店舗退店し6店舗、外食事業の全店舗数は100店舗となりました。

(テイクアウト事業)

テイクアウト事業におきましては、顧客満足度の向上を目的に専門スタッフが店舗訪問時に接客指導を強化するとともに、定期的に集合研修を実施し従業員のスキルアップを図っております。また、節分やひな祭り及び母の日等、季節のイベントに合わせた企画や他社とのコラボ商品により、業績向上を図りました。

以上の結果、テイクアウト事業の売上高は93億10百万円(前年同期比101.6%)、セグメント利益3億81百万円(前年同期比146.1%)となりました。

店舗数につきましては、古市庵テイクアウト店は2店舗出店及び百貨店閉鎖に伴う3店舗閉店により132店舗、梅の花テイクアウト店は46店舗、その他店舗は6店舗、テイクアウト事業の全店舗数は184店舗となりました。

(その他)

その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、第1四半期連結会計期間において株式の取得により完全子会社化した丸平商店グループが営む水産物加工製造販売等であります。その他の区分の売上高は7億46百万円、セグメント損失34百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ8億47百万円増加し、270億78百万円となりました。これは主に、丸平商店グループ及び株式会社すし半の完全子会社化等により、現金及び預金が47億50百万円減少し、有形固定資産が25億73百万円、投資有価証券が12億1百万円、棚卸資産が11億47百万円、のれんが3億58百万円増加したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末と比べ4億69百万円増加し、215億48百万円となりました。これは主に、借入金の総額が1億5百万円、買掛金が90百万円、資産除去債務が50百万円増加したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末と比べ3億78百万円増加し、55億29百万円となりました。これは主に、利益剰余金が2億20百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年9月期の業績予想につきましては、最近の業績の動向を踏まえ、平成28年11月14日に公表致しました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

特定子会社の異動には該当しませんが、第1四半期連結会計期間より、従来の株式会社梅の花Service(株式会社梅の花サービス西日本に商号変更)を分割会社とする新設分割により、株式会社梅の花サービス東日本を設立し、新たに連結の範囲に含めております。

また、株式取得により第1四半期連結会計期間に、株式会社丸平商店、ヤマグチ水産株式会社及び株式会社グッドマーケットレーディングを、当第3四半期連結会計期間に株式会社すし半を、それぞれ連結の範囲に含めております。

さらに、第1四半期連結会計期間より、持分法を適用しない非連結子会社であったUMENOHANA(THAILAND)CO.,LTD.については、重要性の観点から、持分法適用の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(連結納税制度の適用)

当社及び国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,726,651	2,976,361
売掛金	1,367,101	1,441,740
商品及び製品	114,079	1,172,807
原材料及び貯蔵品	199,999	289,154
繰延税金資産	<u>144,504</u>	<u>200,056</u>
その他	503,533	531,950
貸倒引当金	<u>△1,558</u>	<u>△1,558</u>
流動資産合計	<u>10,054,310</u>	<u>6,610,512</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	<u>7,317,501</u>	<u>7,734,048</u>
機械装置及び運搬具(純額)	266,725	309,141
土地	5,280,938	7,201,308
建設仮勘定	12,653	170,861
その他(純額)	<u>519,040</u>	<u>554,693</u>
有形固定資産合計	<u>13,396,858</u>	<u>15,970,053</u>
無形固定資産		
のれん	112,834	471,481
その他	142,233	154,593
無形固定資産合計	<u>255,067</u>	<u>626,074</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	89,827	1,291,317
長期貸付金	201,893	34,624
退職給付に係る資産	210,061	245,120
繰延税金資産	<u>379,465</u>	<u>281,759</u>
敷金及び保証金	1,715,021	1,862,722
その他	<u>111,905</u>	<u>160,361</u>
貸倒引当金	<u>△183,661</u>	<u>△4,059</u>
投資その他の資産合計	<u>2,524,513</u>	<u>3,871,846</u>
固定資産合計	<u>16,176,439</u>	<u>20,467,974</u>
資産合計	<u>26,230,750</u>	<u>27,078,487</u>

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	593,556	684,332
短期借入金	4,300,000	5,900,000
1年内返済予定の長期借入金	1,966,374	1,787,086
未払金	1,118,733	1,174,811
未払法人税等	76,732	92,828
賞与引当金	152,100	157,243
ポイント引当金	193,293	192,968
その他	599,952	750,169
流動負債合計	<u>9,000,741</u>	<u>10,739,439</u>
固定負債		
長期借入金	11,367,656	10,052,680
資産除去債務	691,273	741,308
その他	<u>19,784</u>	<u>15,262</u>
固定負債合計	<u>12,078,714</u>	<u>10,809,251</u>
負債合計	<u>21,079,456</u>	<u>21,548,691</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,123,177	4,123,177
資本剰余金	<u>3,444,602</u>	<u>3,444,602</u>
利益剰余金	<u>△976,570</u>	<u>△755,820</u>
自己株式	△1,436,639	△1,436,639
株主資本合計	<u>5,154,569</u>	<u>5,375,320</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,562	179,497
為替換算調整勘定	△4,725	△23,994
退職給付に係る調整累計額	△4,112	△1,028
その他の包括利益累計額合計	<u>△3,276</u>	<u>154,475</u>
純資産合計	<u>5,151,293</u>	<u>5,529,795</u>
負債純資産合計	<u>26,230,750</u>	<u>27,078,487</u>



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
売上高	22,507,241	23,646,676
売上原価	6,872,926	7,633,494
売上総利益	15,634,314	16,013,182
販売費及び一般管理費	<u>15,364,908</u>	<u>15,517,987</u>
営業利益	<u>269,405</u>	<u>495,195</u>
営業外収益		
受取利息	3,226	2,935
受取配当金	1,107	13,786
持分法による投資利益	-	11,601
受取手数料	20,216	22,687
受取保険金	30,675	-
保険返戻金	16,637	7,566
雑収入	27,052	21,412
営業外収益合計	<u>98,916</u>	<u>79,989</u>
営業外費用		
支払利息	46,645	54,093
自己株式取得費用	22,054	-
株式関連費	37,842	37,660
雑損失	<u>5,326</u>	18,562
営業外費用合計	<u>111,868</u>	<u>110,317</u>
経常利益	<u>256,453</u>	<u>464,868</u>
特別損失		
固定資産除売却損	43,797	10,613
減損損失	<u>112,755</u>	<u>106,472</u>
特別損失合計	<u>156,553</u>	<u>117,085</u>
税金等調整前四半期純利益	<u>99,899</u>	<u>347,782</u>
法人税、住民税及び事業税	42,292	106,283
法人税等調整額	<u>57,134</u>	<u>△13,539</u>
法人税等合計	<u>99,426</u>	<u>92,744</u>
四半期純利益	<u>472</u>	<u>255,038</u>
親会社株主に帰属する四半期純利益	<u>472</u>	<u>255,038</u>

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	472	255,038
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△22,910	173,935
退職給付に係る調整額	△4,680	3,084
持分法適用会社に対する持分相当額	-	△19,268
その他の包括利益合計	△27,591	157,751
四半期包括利益	<u>△27,118</u>	<u>412,789</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△27,118</u>	<u>412,789</u>

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	外食事業	テイクアウト事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	13,342,544	9,164,696	22,507,241	—	22,507,241	—	22,507,241
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	8,469	23,029	31,498	—	31,498	△31,498	—
計	13,351,013	9,187,726	22,538,740	—	22,538,740	△31,498	22,507,241
セグメント利益	<u>646,669</u>	<u>261,321</u>	<u>907,990</u>	—	<u>907,990</u>	△638,585	<u>269,405</u>

(注) 1. セグメント利益の調整額△638,585千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

セグメントごとの固定資産減損損失の計上額は、「外食事業」99,632千円、「テイクアウト事業」13,123千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年10月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	外食事業	テイクアウト事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	13,589,678	9,310,870	22,900,548	746,127	23,646,676	—	23,646,676
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	7,756	22,021	29,778	—	29,778	△29,778	—
計	13,597,435	9,332,891	22,930,326	746,127	23,676,454	△29,778	23,646,676
セグメント利益 又は損失(△)	<u>803,610</u>	<u>381,906</u>	<u>1,185,517</u>	△34,313	<u>1,151,203</u>	△656,008	<u>495,195</u>

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、第1四半期連結会計期間において、株式取得により子会社化した株式会社丸平商店、ヤマグチ水産株式会社及び株式会社グッドマーケットレーディングの営む水産物加工製造販売等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△656,008千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結会計期間において、株式会社すし半の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「外食事業」において2,693,513千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」において、株式会社丸平商店、ヤマグチ水産株式会社及び株式会社グッドマーケットレーディングの株式を取得し、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては318,989千円であります。

また、「外食事業」において、株式会社すし半の株式を取得し、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては124,282千円であります。

(固定資産に係る重要な減損損失)

セグメントごとの固定資産減損損失の計上額は、「外食事業」104,911千円、「テイクアウト事業」1,560千円であります。